

【テーマ1】 緑地管理のモチベーション



緑地管理のなかの「除草」

愛・地球博記念公園における緑地管理の対象は、芝の球技場・広場、花畑・花壇、日本庭園、植込、法面、樹林地や池・湿地などバリエーション豊かで、それぞれの場所・時季ごとに様々な条件や目的・意向が働き合ってとても複雑です。知識・経験

やつながりをフルに駆使して緑地管理にあたります。

しかしながら、緑地管理の8割方は雑草に起因するもので作業内容はほぼ「除草」であり、この「除草」こそが辛くてイヤというのが本音です。桜が散ってから文化の日までの約200日間、週休2日ではほぼ除草作業に従事するのは、本当に過酷です。

イヤな作業をイヤでなくするには、①除草自体を楽しくするか、②除草しなくてよくなるか、③残り2割の(除草以外の)作業を大事にするか—の3つが考えられます。③は、例えば、合間に大工や剪定の仕事を入れて、気を紛らわせたり、同一の姿勢を続けさせず体に負担のかからない仕事の組み方をするなどです。これは人を使ううえでも重要な事項です。②については、一般的には「除草剤をまく」とか「放っておく」という選択肢もありましょうが、緑そのものがウリの公園では採用し難く、作業を外部の方々(企業や市民団体)と協働すること等によりスタッフの負担を軽減することの方が現実的です。除草作業の量を減らすことには限界がありますので、結果、①の「除草を楽しくする」ことをいつも考えていました。

「除草」を楽しくする

あらためて、『除草を楽しくするにはどうしたらよいか』について仮説を立ててみました(右図)。公園スタッフは給料をもらっていますから「①収入」はあることを前提としますと、残る②~④の3つの要素がキーポイントになってくるのではないのでしょうか。

作業(活動)	再掲
◎ 「除草」を楽しくするには…(仮説)	
	→このことは、ボランティア活動者も同じ。
1 収入	
2 社会との関係性(やりがい)	
3 内容の多様さ(マンネリでない)	
4 知識や技術の習得欲	

「②社会との関係性(やりがい)」を創る

グラウンドワーク活動に参加するときもそう思うのですが、「②社会との関係性」があることはやりがいを生みます。活動に社会性があり、大勢の人が注目し、大きな反応があるとやる気になりませんか。

公園で行った一例を紹介しますと、芝刈をするときに刈高を違えることで芝生に模様を描いたことがあります。たくさんの人がいる中でこの作業を行うと、立ち止まって写真を撮る

「作業(活動)」を楽しくするために



人、話しかけてくださる方がチラホラ現れます。反応が良いと公園のブログに掲載されることもあります。この作業をした本人はとても楽しいのですが、これは主に「社会との関係性」を満足したから楽しくなったのでしょうか。

「③内容の多様さ (マンネリでない)」を確保する

ハロウィンの時期には、おばけやカボチャの絵を描きました。肩掛式刈払機を使う作業ですから普段の作業と変わりはないのですが、これはもう明らかにマンネリなんかではなく、作業員の「③内容の多様さ」の欲求にも働きかけをしていたと思われる。

「作業(活動)」を楽しくするために



「④知識や技術の習得欲」を満たしてあげる

その昔は芝生地でしたが人通りの多い園路沿いの重要な場所であったことから、思い切って花畑へ変更した場所です。ワイルドフラワーは十種類程度の種をブレンドして一時期に種まきし、その後、2~3か月にわたり異なる種類の花々が次々に咲いていくのを楽しみますが、この際、種

「作業(活動)」を楽しくするために



芝生⇒ワイルドフラワーへ変更。

のブレンドをその場所の条件に合わせて設計することが重要な仕事になります。当公園ではそれまで種をブレンドした経験がなかったので、当時の担当者は「④知識や技術の習得欲」をそそられたのではないかと思います。その年のワイルドフラワーは一部で雑草に負けて失敗した部分もありましたが、失敗しても「次はうまくやろう」と担当者自らやる気になってくれ、スタッフ全体のモチベーションも上向いたように感じました。

まとめ

先述した『除草を楽しくするにはどうしたらよいか』の仮説は、グラウンドワーク活動にも応用できる部分があるように感じます。4つの項目のすべて、もしくはそれらの一部を満足させることは、活動を継続・発展させていくうえでも「効果あり」なのではないでしょうか。加えて、第3者との関わりをうまく創出・活用することが決め手のようにも感じます。